

三友会だより

第75号

平成 28 年 7 月 21 日発行

宮崎市神宮西 1-49-1

TEL : (0985)32-2234

<http://www.sanyu-kai.jp/>

発行者 石川 智信

穴の開いた靴下

石川 智信

「うーん、この絵、どーかな?」。洗濯したばかりの衣服を汚しながら、真剣な眼差しで描きかけの油絵を指さす。絵心のない私が「ふーん、いいんじゃない」と適当に答えるとすぐに、「本当にわからない人ね」と、半ばあきらめた表情で、妻は私を見る。食事の準備で忙しい時間帯に聞かれても困るよと、私は妻に言い聞かせる。しかし妻は全く違う時空を生きており、こちらの事情は一顧だにしない。いま妻の頭の中には芸術の世界しか存在しないのかもしれない。洗濯物を干そうとした時、先端に大きな穴の開いた靴下を見つけた。何かに引っ掛けて破れたのだろうと思ったが、もう一足も同じように破れている。「これ捨てていいかな」と尋ねれば、「ダメよ、ダ・メ」と怒ったように私の手元から奪い取る。破れたのではなく、わざとはさみで切ったらしい。妻にとって、創作活動と同じくらい大切な日常の活動のひとつに散歩がある。一日に五千歩は歩かないと落ち着かない。ずぶ濡れになると洗濯物が増えるからやめなさいと言えば、雨脚が強い日、雨靴を履き、雨ガッパを着た上に、さらに傘をさして歩いている。暑い日、熱中症になるからやめなさいと言えば、水筒の入った小さな手提げと日傘を持った左手で、動かない右手を支えながら歩いている。

言葉がしゃべれない頃、タクシーに乗っても行き先を告げることができなかった。どこかに行く時、一人の時はひたすら歩くしかなかった。今は片言だが何とか行き先を伝えることができてきている。もっとも馴染みになったタクシーの運転手の皆さんが、辛抱強く話を聞いてくださることで助けられているようでもある。

しかしいくらタクシーに一人で乗れるようになって、関係なく歩く。ひたすら歩く。そのこと自体はいいことであるが、それが原因で厄介なことが起きている。麻痺側の足の親指が炎症を起こして、爪が壊死するのである。これまで3回ほど新しい爪に生え変わっている。合う靴がなかなかみつからない。退院してしばらくは、障害者専門のあゆみの靴を愛用していた。というよりも、装具をつけて履ける靴はそれしかなかった。色は黒と茶色の2色しかない。しかしそれでも自分の足で歩けることの喜びの方が勝っていた。

だが結婚式に招待された時、初めておしゃれ靴を履きたいと思ったようだ。いろいろと探すものの、麻痺のある人のためのおしゃれな靴づくりをしているメーカーは、あるはずも無かった。仕方なく、トライ&エラーで市販されている靴を試し続けている。その結果が足の爪の炎症の繰り返しである。歩くことを控えるしかない、爪の主治医に言われている。しかしそれでもあきらめないのが妻である。足のつま先に少しでも圧がかからないように靴下を2枚重ね着したり、果ては部分的に穴をあけて履いたり、いろいろ工夫している。それがあの穴あきの靴下だったのである。

最近孫も一人で靴を履いて歩くのが楽しくてならないらしく、にこにこしながら玄関から外に出ようとする。その姿を嬉しそうに眺めながら、「悠晴、歩くよ!いいことよ。イチ、ニー、サン」と声掛けをしている。いつか孫の運動会で一緒に走る日を、穴の開いた靴下の向こうに夢見ているのかもしれない。



自治会活動による地域の絆づくり

祇園自治会 会長 新名典忠

祇園自治会は、宮崎市のほぼ中央部に位置し、大淀川と小松川に挟まれた地形のなか、祇園2・3・4丁目、霧島3・4・5丁目が住所地となっています。以前はこの地域全体が祇園町と言われていたのですが、住居表示の変更により現在の住所地区名となったもので、霧島3丁目なのになぜ祇園自治会なのか等の疑問を抱かれる方もいらっしゃるようです。

もともと和知川原区会の一部となっていましたが、宮崎市北部土地区画整理事業によって道路などの基盤整備が進み昭和33年に和知川原区会から分離独立し祇園区会が誕生しました。当時は約60世帯ぐらいで殆どの方が農業を営んでおられました。

環境整備が進んだことで絶好の住宅地となり徐々に世帯数が増えてまいりました。そこで古くから住んでいる方と新たに住人となられた方々との融和と親睦を深めるため、地区運動会や盆踊り大会、班別ソフトボール大会、バレーボール大会などスポーツ、文化活動を通じて地域のつながりが強くなり、今日の祇園自治会の礎が築かれました。

昨年祇園大運動会が、50回の節目を迎え、これを記念して盛大に開催されました。また、夏の祇園まつりも今年で第40回を迎え年々賑やかに催されています。祇園地区の特徴としてこれらの行事によって築かれた地域のつながりが脈々と受け継がれて歴史を重ねている点にあります。このほか市民一斉清掃でも小松川の清掃や大淀川河川敷のゴミ拾いなど小学生・中学生を含め老若男女の多くの区民が和気あいあいと汗を流しております。どぶ川であった小松川も河川改修と区民の長年の努力のお蔭で清流がよみがえり、鯉や小魚、珍しいイトトンボ、アメンボなどの水生生物が多くみられます。撤去した雑草のかわりに梅花藻（ばいかも）が繁り、初夏に梅の花のような白いかわいらしい花が水面を埋め尽くしています。この梅花藻は清流にしか生息しないと言われ、私どもの作業に対するご褒美だと思っております。

これら多くの自治会行事に欠かせないのが班長さんをはじめ、老人クラブ鶴友会、子ども会、生徒会、壮年会、友志の会などの各種団体の方々です。さらに祇園デイサービスの若いスタッフのお力添えも大戦力です。

こうした行事や活動によって地域の絆は強まり、住みよいまちづくりにつながっていくと確信しています。しかしながら高齢化が進み、人材不足を補うのが子どもたちの力かと思っております。そこで運動会や祇園まつりはもとより三世代での木工教室や餅つき大会、昔あそび・ニュースポーツ大会など先人の知恵や技能を伝え、お互いのコミュニケーション力を高めるための三世代交流活動にも力を入れております。そうして子どもたちの体験が引き継がれ、新たな祇園地域のまちづくりの担い手になることを願っています。

近年、各地で大災害に見舞われ、地域の絆が見直されています。災害時を想定した訓練を重ねることも重要ですが、日頃のつながりが非常時に生きてくるものと考えています。また、災害のみならず、高齢化に伴う

いろいろな問題も地域のつながりで解決できることも多くあるのではと思っております。

安全で安心な祇園のまちづくりをめざしてさらに自治会活動の活性化を図ってまいりたいと思っております。



祇園子供太鼓

イギリスの国民投票から思う事

住宅型有料老人ホーム花温
管理者 今村 真紀

6月24日、テレビを見ていて鳥肌が立った。それは、イギリスが国民投票でEU離脱を知らせるニュースだった。何かとんでもない事が起こっているかも知れないと、EUやイギリスの記事を追いかける日々がしばらく続いた。

離脱派の政治家の主張はこうだった。「私達が苦しいのは、移民・難民を受け入れているからだ！移民がいるから、社会保障も限界だ！仕事も奪われている！治安も悪くなった！EUを離脱し国家の主権を取り戻そう！」等々と労働階級の身近な不満を煽った。ところが、離脱派の公約には、大きなウソが含まれていたようだ。何がウソだったかは興味のある方は、スマホで検索して欲しい。ただ、確実に言える事は、国民投票で勝ったにも関わらず、離脱派の旗振り役だった元ロンドン市長のボリス・ジョンソン氏は、保守党総裁選に出馬しないことを表明し、離脱派のリーダーだったイギリス独立党のファラージュ氏も党首を辞めた。しかし、世界中が注目していた…らしい、この国民投票をやり直す事は難しく、責任を取るのには、やはりイギリス国民とその衝撃を受けた国という事になりそうだ。

「移民問題の解決=EU離脱」という図式が出来上がった時点で、9割が労働階級と言われているイギリスでは、当然の結果だったかもしれない。ただ、政治に対する不満を、誰かが意図的に移民や難民問題に、すり替えた様な気がして気持ちが悪い。

とはいえ、アメリカやEUは、美しい理念の元に移民・難民の受け入れに力を入れてきた。しかし、何かが上手く行っていないようである。アメリカのドナルド・トランプ氏の過激な発言と大躍進を、不思議に感じる日本人は、私だけではないだろう。

実は、日本にとっても移民(外国人労働者)は無関係ではない。最初に断っておきたいのだが、これは、「もし近所に定住する外国人が今の10倍、20倍と増えていったら何が起きるか」という「社会制度の問題」であって、「近所に定住する外国人との友情話」ではない。少子高齢化が進む日本の経済成長を支える為に、外国人労働者を多く受け入れるといった議論が現在もされている。介護業界は、人手不足と言われ真っ先に議論された。6月●日の某新聞には、介護は雇用の受け皿になっており、それが劣悪な介護を生んでいると記事になっていた。花温の職員は、「介護したくて働いている人もいます。」と怒っていた。私は、職員の怒りを宥める事になったのだが、その職員達の気持ちがとても嬉しかった。さて、外国人労働者を、介護業界に入れるという話だが、他国の高齢者を介護したいと思う人間がどれほどいるだろうか。それこそ、介護が入国目的の受け皿になってしまうのではないかと不安になる。ただ、日本の少子高齢化は、待ったなしの問題である。移民に大きなメリットがある事も認めよう。しかし、多くの問題を抱えたまま、まともな議論もされず移民政策の拡大が見切り発車ということだけは、避けなければならない。

移民や難民は (1)一度受け入れたら不可逆的である事。(2)移民政策により最も影響を受けるのは、現在の政治家や有権者ではなく、子や孫の世代の一般国民である事 以上の2つは決して忘れてはいけない。

大切なのは、今か未来か。個人か国か。18歳からの選挙権が認められた日本。どうなっていくのか、責任をもってこの国と一緒に歩んで行かなければと思う。



〒880-2112
宮崎市大字小松 200 番地 1
TEL : 0985-47-7887
FAX : 0985-47-0880

< 食事は人を良くすること >

管理栄養士 岩切 美津代

17歳の夏、突然の腹痛に襲われ、緊急手術をした私、それから入退院を繰り返して、二度の手術をしました。この時の入院で、初めて病院食を口にしました。毎食の食事が、品数・量・味すべて、自宅の食事と全く違うことに驚きました。

元気になりたい気持ちで残さず食べ、食事の内容を記録していたことを鮮明に覚えています。

病院の食事を食べ続けて、一週間が経ったころから劇的に顔色が良くなり、体もすごく元気になり、バランスのいい食事は人を元気にするということを痛感しました。

この入院がきっかけで、食事に関心をもつようになり、管理栄養士の道を目指すことになりました。

これまで、市内の病院に20数年の勤務経験はありますが、また一からのスタートだと思い、気持ちを新たに頑張りたいと思っています。

4月からお世話になり、毎日があっという間ですが、日々、利用者さんとの感動ストーリーがあり、学ばせていただいています。

利用者さんの食環境や嗜好は皆それぞれ違いますので、100%満たすことは難しいかもしれませんが、少しでも利用者さんの体調に合わせて、おいしく食べていただけるよう考えていきたいと思っています。

自宅に帰ると、高校生と、中学生の食べ盛りのサッカー少年二人の食事作りに奮闘中ですが、最近は、子供も栄養学を学んだようで、お母さん今日の食事は、〇〇の栄養が足りないよ〜と、指摘されるようにもなり、嬉しいやら、反省するやらの私です。

夫は、最近流行りの糖質ちょっと控えめダイエットに励んでいます。

今後も、利用者さん・利用者さんのご家族に寄り添いながら、「食」でのお手伝いができるよう努めていきたいと思っています。

◆ ◆ どちらのカロリーが高いでしょうか？ ◆ ◆



< コッペパン1ケ >



< デイサービスの食事 >

バランス良く食べることで、元気になります。

食事は、人を良くする事と書きます。

コッペパンとデイサービスの食事は同じカロリーで、525kcalです。

【連載】 有意義だったタシケントの旅 ②

長友 基

市には中央アジア最大の機械工場（私達が働いていた708工場）があり、紡績機械や自動車、機関車などの修理工場もある。軽工場では紡績織り、皮革、食料品加工場が盛んである。特に綿花は有名で、西瓜、メロン、アズ、ブドウ、トマト、リンゴなど、天山山脈の雪解け水を利用した果物や惣菜が豊富で、近隣の都市から訪れる人達は、大きな西瓜やメロンを、強い紐で作られた手さげに入れて自国へ持ち帰る姿をよく見かけた。タシケントから中央アジアの諸都市にはクモの巣のように航空路が延びている。また市内にはこの地方唯一の地下鉄もある。乗ってみたがごく普通の車両、ただ特に目を引かれたのはホームの照明。我が国の照明もよいが、此处タシケントの照明は、私には一風変わった印象を強くした。そのほか電車、トロリーバス、タクシーなどがあり、文字どおり中央アジアの政治経済の中心地となっている。タシケントの歴史はかなり古く複雑である。この地方はトルキスタンとも言われるように、トルコ人とのかかわりが深く、またシルクロードに表現されるように、ここは東西文化交流の重要な地点であった。しかし其処には常に蒙古民俗、トルコ民俗などの部族間の抗争が絶え間なく繰り返されてきた。従ってタシケントを知ろうとすると、モンゴル帝国史、中国史、トルコ古代史などの歴史的要素が、次から次へと求められ、私にはその入り口さえ辿り着くことは到底不可能なことである。幸い書棚の片隅に深田久弥、解説長沢和俊の「シルクロード」が出てきた。随分前のことで何時買ったのか浮かんでこない。目次を見たらタシケントとあった。そのページを見たら赤線が引かれていた。ようやく購入時のことを思い出した。そのところを読み返してみると意外に分かり易く書かれてあったので、これを引用させてもらった。最初に国名タシケント（タシケント）の由来が記してある。それは唐時代（618～907）TASHENT、すなわち「石の町」としたとあるが、この名が広く用いられるようになったのは、14世紀の後半だという。ジンギスカン（1167～1227）の遠征路上にあったタシケントは彼らに占領され、その子孫によって治められたが、チムール出現以後は彼とその子孫の支配下に入った。その後キルギスの所有となった。19世紀前半から帝政ロシアの南進が始まり、タシケントは1865年に占領された。1867年にトルキスタン総督府が新設され、その初代総督にカウフマン中将が任命された。

次回へ続く



【タシケントの街】

寄稿頂いた長友基様は、平成28年7月にご逝去されました。前々回より寄稿頂き、「有意義だったタシケントの旅」も続きを寄せていただいております。改めてお礼申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

25年ぶりのリベンジにむかって

地域連携室 甲斐俊二

「オールスターも終わり、いよいよ後半戦へ」といわれてピンとくる方は、かなりのプロ野球ファンだと思う。この時期は、夏の高校野球も始まり、野球好きにはたまらない季節だ。さて、ここで白状すると、私は熱烈な広島カープのファンである。小学校3年生からなので、ファン歴40年以上である。昭和50年のカープ初優勝のときは小学校6年生だった。この時は、広島初優勝と長嶋巨人の最下位という事で、野球界は騒然としていたような印象があった。その後、昭和54年、55年とペナントレース・日本シリーズで2連覇を達成した。

この時は、北別府・福士・山根・池谷の先発陣に、抑えが江夏。打者は、山本浩二・衣笠・水谷・高橋慶彦・ライトル等々、まさに黄金時代だった。ちなみに「江夏の21球」は昭和54年の日本シリーズである。また、昭和56年以降、セリーグの球団で日本シリーズを連覇した球団はないのだそうだ。(まあ、どうでもいい情報かもしれないが・・・)

さてその後、昭和59年日本一となるが、昭和61年にはペナントレースを優勝するも、日本シリーズで西武に敗れ、日本一にはなれなかった。この時には、現ソフトバンク監督の工藤公康選手に投打に活躍され、工藤一人にやられたシリーズだった。

そして、25年前(平成3年)広島が再びセリーグのチャンピオンとなった。その時は、監督が山本浩二、佐々岡・川口・北別府の先発陣、抑えに大野(当初は、津田とダブルストッパー構想だったが、津田が脳腫瘍で戦線離脱)と投手王国で勝ち上がった。

そして、またもや日本シリーズで西武に敗れてしまう。その時は、前ソフトバンク監督の秋山幸二選手に、ホームランを打たれ、ホームベースでバク転・バク宙のパフォーマンスを決められた時である。この場面は今でも思い出される。そして、次こそは日本シリーズで西武にリベンジするんだと自分に言い聞かせた記憶がある。

あれから25年。多くのカープファンは、25年ぶりの栄光(ペナントレース優勝)を待ち望んでいる事だろう。もちろん私も25年ぶりの優勝を願っているのだが、あの時の「西武にリベンジを」という気持ちが、ふつふつと湧き上がってくる。パリーグのペナントレースを見れば、西武ライオンズはとても優勝できそうもない。だけど首位を走るソフトバンクの監督は、あの工藤公康さんではないか。そして前監督が秋山幸二さん。

これはなにか縁がある。神様が「リベンジしなさい」と言っているようだ。今年こそ、ペナントレースを優勝し日本一を目指そう。そして、広島選手でバク転・バク宙のお返しをしてほしい。新井選手は年齢が年齢なので、ここはひとつ「神ってる」鈴木誠也選手に期待することにしよう。そして何とか25年ぶりのリベンジをはたしてほしい。



新人紹介

富高 沙織 受付(事務)

6月16日からパートで受付事務として働かせて頂いています。質問ばかりで先輩方の手を止めていますが、毎日楽しく仕事させて頂いています。早く皆様のお役に立てる様に頑張りたいと思います。



須志田 久美子 厨房(調理師)

万智に来て、2ヶ月が過ぎました。利用者様に、美味しい料理が提供できるように頑張りますので、よろしくお願い致します。

